

兵庫 西宮 支部 ニュース
 兵庫 西宮 支部 ニュース

No. 302
 2012・1・25

発行 兵庫 西宮 支部
 〒662-0074 西宮市石別町十八ー八
 連絡先 兵庫 西宮 支部
 電話 〇七八(三九三)一八〇一

中医学の考え方に基づく 冷え性への漢方処方方を学ぶ

西宮・芦屋支部は昨年12月3日、西宮
 神社会館で「漢方治療はまず冷えから
 冷えによる諸疾患の漢方治療」をテー
 マに第27回漢方研究会を開催。講師は伊
 賀文彦先生(神戸市東灘区・いが漢方内
 科 金のさじ診療所)、司会は川崎史寛先
 生(西宮市・川崎医院)と、長光由紀先
 生(伊丹市・ウイング調剤薬局)が務め、
 医師・薬剤師ら100人が参加した。

伊賀先生は、中国式の漢方(中医学)
 では、「陰・陽・気・血・津液・精」の6
 つを基本物質と考え、冷え症を「陽が不
 足している状態＝陽虚」ととらえ、主に
 ①顔色が蒼白い、②舌の色が白っぽい、
 ③脈が沈んでいる、④寒さを嫌う、の4
 つから診断すると解説。そのうえで、冷
 え症の患者に処方するおすすめの方剤に
 ついて、部位ごとに詳しく紹介した(後
 掲表参照)。

また、代表的な生薬である「乾姜、桂皮、
 附子」のうち、附子(トリカブトの塊根
 を減毒処理したもの)は、あまり使いた
 がらない先生も多いが、うまく使えば非
 常にいい効果を発揮するとして、中医学
 の中でも陽気を重要視して附子を多用す
 る「火神派」から学んだ処方例なども紹
 介された。

フロアからは「附子の処方例にとても
 関心を持った」などの感想が寄せられ
 ほか、「漢方処方にいぶかる患者には、分
 かりやすい処方から始めたり、選択肢の
 1つとして提示することができるとは
 ないか」「漢方製剤を複数投与する場合、
 保険請求をどうすればよいか」など、熱
 心な意見交換がなされた。



中医学の考え方について解説する伊賀先生

冷え症におすすめの方剤

部位	方剤	解説
肺から上	麻黄附子細辛湯	肺を温め、肺気を巡らす。 通常2.5～5g/日でよい。それ以上使用すると動悸、胃痛などが生じやすくなる。
	小青竜湯	肺を温めると共に水気をとる。 配合生薬の違いで麻黄附子細辛湯より動悸は生じにくい。長期に使用すると口渇が生じることがある。
心臓から臍まで	人参湯+附子	最も温める効果の強い処方まで心臓から臍まではもちろん全身を温める効果を持っている。 冷えが強い場合に他の方剤に加えてもよい。
臍から下	八味地黄丸	下半身の冷えに対する基本的な処方。
	牛車腎気丸	八味地黄丸に牛膝と車前子を加えたもので腰痛、膝痛、頻尿、むくみなどがある場合には八味地黄丸より効果が期待できる。
四肢末端	当帰四逆加呉茱萸生姜湯	温めながら血行をよくする働きがある。 四肢の冷え、しもやけなどによい。 また頭痛にもよい。



医師・薬剤師ら100人が参加し活発な意見交換がなされた



司会を務めた川崎先生(左)と長光先生(右)

世話人会だより

西宮・芦屋支部は12月12日に西宮中
 央公民館(西宮市男女共同参画セン
 ターウエーブ)で世話人会準備会を開
 催(世話人会は12月は休会)。3人が
 参加した。

- 【報告】
- ①第28回在宅医療研究会(11・26)
 - ②第10回胸部X・P読影会(12・2)
 - ③第27回漢方研究会(12・3)
- 【予定・企画】
- ①会員忘年会(12・29)
 - ②英語で診療 Medical English #32(2・17)
 - ③奈良県「春鹿」醸造 酒蔵見学会(2・26)
 - ④2012年診療報酬改定・介護報酬改定研究会(3・22)
 - ⑤第18回医療過誤訴訟セミナー
 - ⑥財政と医療制度の勉強会
 - ⑦毎日の診療に役立つ iPad・iPod・iPhone

※世話人会の日程は毎月第4金曜日です。支部についてのご意見や企画案などをお寄せください。

西宮・芦屋支部 2月の文化企画

奈良県「春鹿」醸造 酒蔵見学会

【日時】 2月26日(土) 13時15分～(2時間程度)
 【会場】 清酒春鹿醸造元(株)今西清兵衛商店
 ・JR奈良駅より奈良交通バス福智院町下車徒歩1分
 ・近鉄奈良駅より徒歩15分
 【会費】 500円(利き酒代込み)
 【定員】 20人(事前申込制)

※お問い合わせは事務局 078-393-1803 まで



会員忘年会

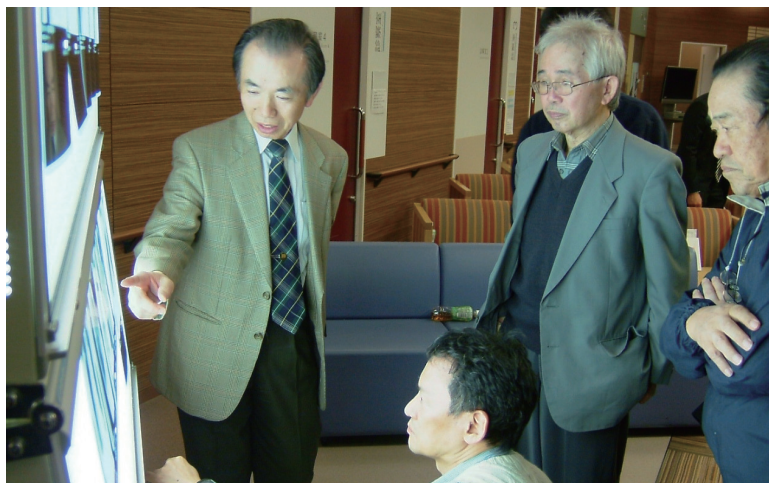
一年間を振り返り 交流を深めあう

12月29日、「木曾路」西宮店で、加藤隆久先生（西宮市・加藤歯科医院）の司会のもと、毎年恒例の会員忘年会を開催。今回も Medical English の Robert Conroy 氏、医療過誤訴訟セミナーの鶴飼万貴子弁護士（大阪・米田泰邦法律事務所）、胸部 X-P 読影会の橋野盛彦先生（西宮市・橋野医院）、漢方研究会の長光由紀先生（伊丹市・ウイング調剤薬局）など、日ごろより支部企画の講師・司会でお世話になっている方々を含め、20人が参加した。

幸原久先生（芦屋市・幸原小児科・内科医院）からの乾杯の発声の後、参加者は東日本大震災など一年間で起こった出来事や支部の活動について振り返るとともに、日常診療などについて語り合い交流を深めた。



幸原先生からの発声で乾杯する参加者



持ち寄ったレントゲン画像を真剣に検討する参加者

の感想が寄せられた。診察に役立つ実践的な研究会だった」などの感想が寄せられた。

また、治療に用いる薬については、①ステロイド、②抗菌剤、③気管支拡張剤、④抗アレルギー剤などがあるが、急性増悪時にはステロイド剤は、十分な量を短期間投与すべきこと、抗菌薬も自覚症状悪化時には原則的に投与すべきこと（キノロン系・マクロライド系）などを説明した。

講演後には、参加者が日々の診察で撮影した胸部レントゲン画像を持ち寄り、写っている影などからどのような診断を行うべきかについて、意見を出し合いながら真剣な検討がなされた。

参加者からは、ステロイド剤の使用方法などについて質問がなされたほか、「性別・年齢・症状の異なる具体的な症例が複数挙げられ、とても参考になった」「明日からの診療に役立つ実践的な研究会だった」などの感想が寄せられた。

第10回胸部X-P読影会 明日からの診療に役立つ 気管支喘息の診断・治療法

12月2日に西宮渡辺心臓・血管センターで、原秀樹先生（尼崎市・はら内科クリニック）を講師に迎え、「気管支喘息の増悪時期における管理と治療」をテーマに第10回胸部X-P読影会を開催。橋野盛彦先生（西宮市・橋野医院）の司会で、講演後には参加者が持ち寄ったレントゲンに基づき症例検討も行われ、9人が参加した。

原先生は、気管支喘息について複数の具体的な症例を挙げながら分かりやすく解説。特に気管支喘息の急性増悪時の診断については、①上気道疾患（特に鼻腔・副鼻腔疾患）に留意すること、喉をよく見て後鼻漏を見落とさない、②注意深い聴診を行うこと（呼吸終末の喘鳴を見落とさない、呼吸音減弱時はSpO₂も）、③高齢者の場合は肺炎に留意すること、などがポイントとなることを指摘した。

英語で診療 Medical English #32

【日時】 2月17日（金）13時半～15時

【会場】 西宮フレンテ5階練習室

【テーマ】 「動悸&急性冠症候群」

【講師】 Com Language School

Mr. Robert Conroy

【アドバイザー】 西宮市・伊賀内科・循環器科

伊賀 幹二 先生

支部設立 30 周年記念ブルゾン販売のお知らせ

西宮・芦屋支部では設立 30 周年を記念し、記念のブルゾンを作成いたしました。通気性・撥水性が良く収納用のポケットも充実しているため、救急時や災害時はもちろん、普段の往診の際などにも大変便利にお使いいただけるブルゾンとなっております。背中には「Nishinomiya-Ashiya branch of Hyogo Medical Practitioners' Association (兵庫県保険医協会西宮・芦屋支部)」のロゴ入り。

ぜひこの機会にお買い求めください！

【会員特別価格】 6,000円

(税込、送料別途)



	S	M	L	LL
着丈	63	65	67	69
肩幅	48	50	52	54
袖丈	58	60	62	63
胸廻	113	118	123	128